



アヌココロ アイヌ イコロマケシル ソンコ

アヌアヌ

創刊準備号

2020.March

国立アイヌ民族博物館ニュースレター

「アヌアヌ」はアイヌ語で「聞いて聞いて」の意味です。

基本展示

6テーマと探究展示

開館特別展示

私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ

会期：4月24日(金)～6月21日(日)

博物館ピックアップ

職員一覧

国立アイヌ民族博物館開館PR展示ヤヨペヨペ

インフォメーション



基本展示紹介

常 設の基本展示室は、「私たち」というアイヌ民族の視点で、ことば、文化、歴史について紹介します。アイヌ民族が居住してきた北海道、樺太、千島、東北地方に人類が住み始めた約3万年前から、2020年までととても長い時間が対象です。また、館内のサインや展示室の解説パネルは、各地のアイヌ語を受け継ぐ人が考え、書いたもので、音声ガイド（機器貸出）でそのアイヌ語を聞くこともできます。音声ガイドを含んだスマートフォンのアプリを公開しますので、ぜひ合わせてご覧ください。



基本展示室完成イメージ

「イタク」 私たちのことば

アイヌ語や物語、地名や現在の取り組みを紹介します。関連資料の展示だけではなく、アイヌ語に親しめる空間となっています。いりろ端に座っているような気分でアイヌ語での語りを聞くことができるコーナーや、アイヌ語の仕組みや発音をゲームを通して知ることができるコンテンツ、地名や会話についての映像もあります。



映像「アイヌ語会話」のワンシーン

「イノミ」 私たちの世界

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化について紹介します。ありとあらゆるものに宿るラマツ（靈魂）の世界観が広がるアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて説明します。樺太の熊の霊送り儀礼（イヨマンテ）でクマを繋ぐ高さ6m余りの木の柱が目を引きまます。さまざまな儀礼に関わる諸道具について使い方を含め紹介します。



仔グマつなぎ杭の設置

「ウレシパ」 私たちの暮らし

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、暮らしの文化について、道具や映像を通じて紹介します。衣服（樹皮）について、オヒョウの皮剥ぎから糸づくり、そして実際の織機を展示するなど、伝承に携わる人々の取り組みも展示します。



オヒョウの樹皮剥ぎ



アットウシの織りの撮影

ウパシクマ—— 私たちの歴史

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げます。展示コーナーを訪れると、上部壁面に、事柄とそれに呼応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介します。



資料調査風景(別海町郷土資料館)



国後島と択捉島の絵図

ネプキ—— 私たちのしごと

アイヌ民族が携わってきたしごとを取り上げます。前半は、狩猟、漁撈、農耕、採集で使用される道具やその仕組みを紹介します。一年を通して行うしごとを検索するコーナーもあります。後半では、明治以降から行ってきたしごとや工芸品などを取り上げます。仕事道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の様子を伝えます。



「現代のしごと」紹介の撮影(「kerapirka」にて)

ウコアプカシ—— 私たちの交流

アイヌ民族を取り巻く周辺の諸民族との過去から現在までの交流について紹介します。

シンボル展示のひとつである北海道厚岸湖出土の板綴舟(厚岸町所蔵)は、厚岸町でのクリーニング後に白老町へ輸送し、展示に向けて細部のクリーニングや強化処理などの保存修復を行ったものです。



板綴舟のクリーニングの様子



板綴舟の強化処理の様子

イケレウシ テンパテンパ 探究展示

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナーです。ジオラマ、模型、タマサイ(首飾)やサケ・シカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめます。探究展示とまわりの6テーマ展示を行き来するたびに、アイヌ文化への理解がさらに深まるはずです。

※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語です。



制作中のユニット:「タマサイ(首飾)」



展示ユニットの試行の様子:「むかしの家」、「着物」



特別展示紹介

開館記念特別展「私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ」は、国立アイヌ民族博物館開館の4月24日から6月21日の会期で開催されます。アイヌ文化は、過去から現在、そして未来へとさまざまな形で継承されています。このアイヌ文化の継承を五つのテーマで展示します。「民具の継承」ではイタ(盆)と着物について継承者の系譜を交え、現在へ伝えられてきた軌跡をたどります。「アイヌ語の継承」ではアイヌ文化伝承者萱野茂氏とアイヌ語の出版物について同氏の活動や著作などを中心に紹介します。「芸能の継承」は歌や踊りを伝承している各地のアイヌ文化保存会を紹介します。また「現在の継承者」では、様々なかたちで継承を担う現代の人たちに自己紹介の形でご案内します。「現代の匠－優秀工芸師」は、アイヌ協会が認定した優秀工芸師についての紹介です。これらの展示をとおして現在に生きるアイヌ文化の様々な形を知る機会になっていただければと考えております。



「サスイシリ」はアイヌ語で「永遠」という意味です。



教材用衣服



エムシアッ(刀掛帯)



エムシアッ レクトゥンペ(首飾り)

博物館ができるまで

2018年2月



いよいよ工事がはじまります

2018年5月



まずは建物の土台づくり(杭打ち)

2018年10月



骨組みとなる鉄骨を建てます

2018年11月



2階部分の鉄骨が立ち始めています

2018年12月



雪の中でも工事は進んでいます

2019年1月



1階は部屋の仕切りの支柱ができてきました

2019年1月



建物東側からみたところ

2019年5月



屋根、外壁ができあがってきました

2019年6月



屋根にロゴマークが表現されています

2020年2月



建物が完成しました

博物館ピックアップ

衣服(樹皮)

2015年に文化庁で収集した衣服です。オヒョウなどの木の皮で作られた糸で織られたもので、アイヌ語でアットウシやアハルシと呼びます。襟、袖口、裾周りや背面には、細い藍、ベージュや縞模様の木綿布を置き、その縁をイラクサなどの草で作られた糸で縫い留めています。さらに、木綿布の中央には同じく草の糸を用いて点線状の刺繍が刺されています。よく見ると、その刺繍は木綿布の縞模様に並行して施され、その細やかな技術を見ることができます。

この衣服の背面の模様や刺繍の技法は、現存する最古のアットウシと考えられている、江戸時代後期に蝦夷地探索を行った木村謙次(1752-1811)が収集した資料や、ドイツ帝国プロイセン王国の初代駐日領事であるマックス・フォン・ブラントが1865年に収集した資料(ベルリン国立民族学博物館所蔵)と非常によく似ています。この点線状の刺繍は、現代には受け継がれていないものとされていることから、この衣服も150年以上前に作られ、補修をしながら大切に伝えられてきたものかもしれません。(宮地 鼓)



職員一覧

現在、文化庁、独立行政法人国立文化財機構、公益財団法人アイヌ民族文化財団の職員で構成される国立アイヌ民族博物館設立準備室において、開館に向けた準備を進めてきました。

■国立アイヌ民族博物館設立準備室(文化庁)

職名	氏名	担当業務(専門分野)
室長	榎本 剛	総括
室長補佐	森下 元文	総括
主幹 (国立文化財機構部長)	佐々木史郎	総括(文化人類学)
調査官	内田 祐一	副総括(生活文化)
	永野 正宏	教育普及・広報(近世史)
専門官 (国立文化財機構課長)	南 健一	総務
学芸員 (国立文化財機構) (主任研究員)	藪中 剛司	研究交流(物質文化)
	霜村 紀子	資料情報(美術史)
	田村 将人	展示企画(近現代史)
専門職	樫木 大輔	工事施工管理
主任	佐伯 圭介	総務
係員(国立文化財機構)	小杉 則彬	総務
研修生(白老町派遣)	平野 敦史	総務・広報

令和2年3月1日現在

■国立アイヌ民族博物館(公益財団法人アイヌ民族文化財団)

部課室名	氏名	担当業務または専門分野
事業課	石澤 博隆	博物館管理運営業務 (総括・企画調整・進行管理)
	佐藤 直人	博物館管理運営業務 (企画調整・総務)
	高田 将寛	博物館管理運営業務 (企画調整・総務)
	佐々木智恵	博物館管理運営業務(総務)
	上林 春奈	博物館管理運営業務(総務)
	山田 琴美	博物館管理運営業務(総務)
研究員 研究学芸部 展示企画室	鈴木 建治	考古学
	小林 美紀	アイヌ語
	深澤 美香	アイヌ語
	矢崎 春菜	アイヌ語
研究員 研究学芸部 研究交流室	笹木 一義	博物館学
	日野 貴文	森林生態学
	宮地 鼓	環境学
	赤田 昌倫	保存科学
研究員 研究学芸部 資料情報室	八幡 巴絵	アイヌ文化
	中井 貴規	アイヌ語・アイヌ文化
	大江 克己	保存科学
	竹内 隼人	アイヌ文化
研究員 研究学芸部 教育普及室	立石 信一	近現代史
	奥山 英登	博物館教育
	関口 由彦	文化人類学
	北嶋 由紀	アイヌ文化
	押野 朱美	アイヌ文化

令和2年3月1日現在

国立アイヌ民族博物館開館PR展示 ヤヨペヨペ

2019年4月の北海道立北方民族博物館、旭川市博物館から始まり、2020年4月まで北海道内外の36カ所の会場にて、「国立アイヌ民族博物館開館PR展示ヤヨペヨペ」を開催しています。「ヤヨペヨペ」とはアイヌ語で「自己紹介」の意味です。本展では博物館の展示や今後の活動等についてパネルや動画で紹介しています。また、各会場の会期中には研究員による講演会やムックリ製作体験など、アイヌ文化に触れるイベントも行っています。

■ヤヨペヨペ 国立アイヌ民族博物館開館PR展示 開催スケジュール

	開催期間	会場	講演会	体験イベント
1	4/27~5/12	北海道立北方民族博物館	5/11 「アイヌ絵入門」(霜村)	
2	4/27~5/19	旭川市博物館	5/12 「アイヌ民族の暮らし」~「私たち」の文化を学び、実践する。伝承者育成事業研修生としての体験から~(中井)	
3	5/16~6/16	新ひだか町博物館	6/5 「国立アイヌ民族博物館準備状況報告」(数中)	
4	6/4~7/7	せたな町立生涯学習センター		6/29 「ムックリ」
5	6/21~7/7	室蘭市民俗資料館	6/30 「近世蝦夷地における天然痘流行とその対策~胆振地域を中心に~」(永野)	
6	7/6~9/23	北海道博物館		
7	7/12~7/18	北見芸術文化ホール	7/17 「進捗状況報告」(数中)	
8	7/13~7/25	陸別町公民館	7/20 「アイヌ語で話そう!」(小林)	7/20 「ムックリ」
9	7/16~7/31	登別市民会館		7/27 「切り絵」
10	7/26~8/23	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館	8/7 「アイヌ民族の着物」(北嶋)	
11	7/9~7/27	八雲町郷土資料館		7/27 「切り絵」
12	8/1~8/12	帯広百年記念館		
13	8/3~8/25	つきさっぷ郷土資料館		
14	8/3~8/19	函館市中央図書館		
15	8/17	函館博物館1号公開		8/17 「ムックリ」
16	8/18~8/25	千歳市民ギャラリー	8/18 「アイヌ民族のしごととアイヌ文化の“今”を知らう!」(関口)	8/18 「ムックリ」
17	9/1~9/28	オホーツクミュージアムえさし		9/28 「ムックリ」
18	9/6~9/23	美幌博物館	9/7 「美幌のアイヌ文化ー北海道・樺太・千島のなかで」(田村)	9/8 「ムックリ」
19	9/13~3/31	函館市北方民族資料館	11/30 「アイヌのきもの一文様・刺繍・素材からみる」(宮地)	
20	9/14~9/24	新ひだか町博物館 新ひだか町アイヌ民俗資料館		
21	9/17~9/26	白老町中央公民館		
22	10/1~10/15	平取町二風谷アイヌ文化博物館		
23	10/5~10/27	別海町郷土資料館	10/20 「アイヌ語と日本語ー加賀伝蔵がみた道東地方のアイヌ語の世界」(深澤)	
24	10/19~11/3	北海道埋蔵文化財センター		11/2 「ムックリ」
25	11/1~11/3	比布町農村環境改善センター体育館		11/3 「ムックリ」[探究展示]
26	11/1~3/31	苫小牧市中央図書館	2/22 「アイヌのおはなしー物語から知るアイヌの暮らしと文化」(矢崎)	
27	11/9~1/13	北海道立近代美術館		12/7・21 「ムックリ」[探究展示]
28	11/16~12/15	恵庭市郷土資料館	12/7 「動物のカムイ~人の世界とカムイの世界」(内田)	11/16 「ムックリ」
29	11/19~12/1	アポイ岳ジオパークビジターセンター	11/22 「アイヌ民族と自然ー暮らしの中の植物」(日野)	11/23 「ムックリ」
30	12/10~12/17	北海道立釧路芸術館	12/15 「アイヌの織機と織物」(宮地)	
31	12/21~1/16	厚岸町海事記念館	1/11 「科学の目でみるアイヌ民族資料」(大江)	1/11 「ムックリ」
32	1/4~1/19	白老町陣屋資料館		1/19 「ムックリ」
33	1/18~2/9	釧路市立博物館	1/26 「科学の目でみるアイヌ民族資料博物館で分析が果たす役割」(赤田)	
34	1/25~3/15	宮城県立美術館		
35	2/1~3/1	北海道大学総合博物館		
36	2/15~4/12	星の降る百年記念館(芦別市)		
37	3/20~4/9	小樽市総合博物館		
38	4/2~6/2	国立民族学博物館		

※会期は変更になる可能性があります。



弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館講演会



帯広百年記念館



函館博物館1号公開



オホーツクミュージアムえさし



恵庭市郷土資料館



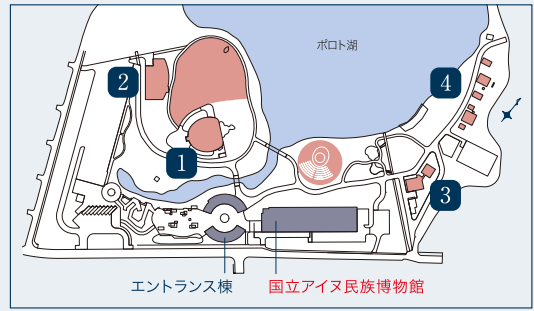
厚岸町海事記念館



ウポポイ(民族共生象徴空間)は、私たちの国の重要な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として整備されました。主な施設に、国立民族共生公園、国立アイヌ民族博物館、慰霊施設があります。

- 1 ウエカリ チセ
体験交流ホール
伝統芸能上演プログラム
- 2 ヤイハノツカラ チセ
体験学習館
食文化体験、伝統芸能体験、キッズ(子ども向け)プログラム
- 3 イカラ ウシ
工房
伝統工芸品の制作実演、刺繍などの制作体験
- 4 テエタ カネ アン コタン
伝統的コタン(集落)
伝統的儀礼の公開、民族衣装の試着

アヌココロ ウアイヌコロ ミンタラ 国立民族共生公園



日本最北の国立博物館 国立アイヌ民族博物館へのアクセス

札幌から約1時間、
新千歳空港から約40分。

国立アイヌ民族博物館は、ウポポイ(民族共生象徴空間)内にあります。



◆空路

東京→新千歳空港 約1時間40分

大阪→新千歳空港 約2時間

◆道内各都市から

札幌 【札幌北IC】高速道路利用で約65分
【JR札幌駅】特急列車利用で約65分

新千歳空港 【新千歳空港IC】高速道路利用で約40分
【JR新千歳空港駅】特急列車利用で約40分

※上記時間は、目安です。乗換え時間は含みません。

登別 【一般国道36号】一般道路利用で約40分
(登別温泉からの目安)
【JR登別駅】特急列車利用で約12分

苫小牧 【一般国道36号】一般道路利用で約30分
(苫小牧市街からの目安)
【JR苫小牧駅】特急列車利用で約15分

室蘭 【登別室蘭IC】高速道路利用で約45分
【JR東室蘭駅】特急列車利用で約30分

函館 【大沼公園IC】高速道路利用で約2時間50分
【JR函館駅】特急列車利用で約3時間

白老駅から徒歩約10分

【一般駐車場】第1駐車場 約246台、第2駐車場 約311台
白老駅に特急列車(北斗、すずらん)1日31本停車(予定)

■各種設備

- ▶ 多言語対応(最大8言語:アイヌ語、日本語、英語、中国語[簡体字・繁体字]、韓国語、ロシア語、タイ語)
- ▶ バリアフリー ▶ 無料Wi-Fi ▶ キャッシュレス

■開館時間(2020(令和2)年度)

期間	営業時間
通常	平日 9:00~18:00 土日祝日 9:00~20:00
7月20日~8月31日	9:00~20:00
11月1日~3月31日	9:00~17:00

※休館日/月曜日(祝休日の場合はその翌日以降の平日)および年末年始(12/29~1/3)

■入館(入園)料金

	個人	団体(20名以上)
大人	1,200円	960円
高校生	600円	480円
中学生以下	無料	無料

国立アイヌ民族博物館は、ウポポイ(民族共生象徴空間)の入園料金ががかかります。

※博物館と公園の共通券です(博物館の特別展示や一部の体験メニューを除く)。

■お問い合わせ:



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1

TEL 0144-82-3914(大代表) ウェブサイト <https://nam.go.jp/>

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ

検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

